

【2026年度事業計画書】

(公益目的事業1) 次代を担う青少年の健全な育成に資する事業

1. イオン チアーズクラブ(予算：3億1,700万円)

自然環境や社会貢献活動などに興味や関心を持ち、考える力を育む場として、小中学生を対象に体験学習を行っています。各クラブは1年間の成果を壁新聞に取りまとめています。

(1) 本年度の主な取り組み

① サマーキャンプの開始

創設から25年目を迎える本年は、イオン チアーズクラブのさらなる発展を目指し、これからも継続的に取り組む事業として「サマーキャンプ」を開始します。これまで全国大会として実施していた壁新聞の発表のほか、テーマを設定し、開催エリアの子どもたちや年齢、国籍の異なる人々との交流を通じて学びを深めることを目指します。

- ・実施期間 2026年7月27日～7月29日
- ・場 所 沖縄県
- ・テ マ 自然を通じて平和を学ぶ
- ・参加者 壁新聞入賞チアーズクラブメンバー・コーディネーター
沖縄県のチアーズクラブメンバー
- ・内 容 地域特有の生態や文化資源を活用した体験学習
壁新聞の発表会・交流会
アジア ユースリーダーズとの合同プログラム

② チアーズ農園の拡大

2023年にスタートしたチアーズ農園の開園に向けたプロセスや運営の知見が蓄積されてきたことを踏まえ、より多くのチアーズクラブメンバーが自然の恵みを体感し、農業や食について深く学ぶ機会を拡大します。2年後には全国10カ所で開園することを目指し、本年は北海道、南関東、東海、九州、沖縄で順次開園の準備を進めます。

③ イオン チアーズクラブコーディネーター研修による実践力向上

活動を支えるコーディネーターのスキルと実践力向上を図るため、「壁新聞の作り方」に加え、新たに「計画・運営の仕方」、「リスク管理」をテーマに外部講師を招いてオンライン研修を実施します。研修内容についてはアーカイブ配信を実施し、全てのコーディネーターがいつでも学べる環境を整備します。また、イオン チアーズクラブが25年目を迎える本年は、チアーズクラブのさらなる発展につなげるため、全国のコーディネーターのスキル向上とベストプラクティス共有の場を設けます。

2. 中学生作文コンクール(予算：6,100万円)

多感な時期といわれる中学生が環境に関する社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に実施しています。2026年度は、民間主催のコンクールで最多となる2万点を超える応募数を目指します。

(1) 本年度の主な取り組み

① 連携先の拡大

(公社)日本図書館協会と(公社)全国学校図書館協議会からの後援獲得に向けた働きかけを行います。全国の公立図書館や書店などと連携し、中学生に向けた環境関連書籍の特設コーナーの設置やワークショップなどを実施し、コンクールへの応募を促します。

② 応募プロセスのDX化

学校や生徒の利便性を高めるため、紙媒体での郵送の手間と配達時のリスクを削減し、オンラインで完結できるWEB応募システムを導入します。

③ 環境エコツアーの実施

2026年度は、環境に関するセミナーやグループワークに加え、川端康成記念館(鎌倉市)への訪問等を通じて、日本文学への理解と受賞者同士の交流を深めます。

(2) 募集・審査および表彰式スケジュール

- ・ 募集期間 2026年 6月1日～9月5日
- ・ 審査期間 2026年 9月中旬～10月下旬
- ・ 表彰式 2026年11月28日～29日(環境エコツアー含む)

3. イオン エコワングランプリ(予算：5,300万円)

全国の高校生がクラブ単位で取り組んでいる環境保全や社会貢献に関する活動の発表を行い、表現力や発信力を向上させるとともに、優れた事例を見聞きすることで、新たな取り組みにつなげることを目的に実施しています。

第15回の開催となることを機に、名称に「イオン サステナビリティ アクションアワード」を加え、エコにとどまらない多様な社会課題に向きあう大会としていきます。

(1) 本年度の主な取り組み

① 応募テーマの多様化

専門高校や過去の受賞校からの応募が定着する中、応募テーマの多様化を図るため、本年はスーパーサイエンスハイスクール指定校や普通科高校への案内を強化します。

② 応募数の拡大

a. 初級者向け奨励賞の新設

エコ活動を開始したばかりのクラブや過去に受賞歴がないクラブを対象に、活動の継続を奨励する賞を新設し、より応募しやすい環境を創出します。

b. エリアミーティングの開催

参加者同士の交流と学びの深化を目的にエリアミーティングを開催し、活動のヒントや学習の機会を提供することで、応募を促進します。

③ 最終審査会・表彰式のオープン化

より多くの学生にとっての学びの場とするため、各校からの参加人数を従来の2名から5名に増やし、審査会や表彰式が活気ある交流の場となるよう進化させます。また、最終審査会と表彰式を一般に公開することで、本事業の知名度向上を図ります。

(2) 募集・審査および表彰式スケジュール

募集期間	2026年 7月1日～8月31日
審査期間	2026年 9月～11月中旬
最終審査会・表彰式	2026年12月12日～13日（環境エコツアー含む）
共 催	株式会社毎日新聞社

4. イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン(予算：6,700万円)

アジアの一部地域では、遠方への水汲みに時間をとられ、学校に通えない子どもたちがいます。これらの地域に安全な水を届けるため、(公財)日本ユニセフ協会と協力して全国から寄せられた募金にマッチング寄付を行い、支援を実施しています。

(1) 本年度の主な取り組み

① 募金への参画促進

支援が必要な子どもたちの様子など、当該国の水問題の実情が伝わるよう、ポスター掲示に加え、デジタルサイネージやSNSでの発信を強化し、募金を促進します。

② 支援対象国での贈呈式の開催

カンボジアの商業施設で寄付金贈呈式を開催し、現地での本事業の認知度向上に努めます。また、2025年度から支援を開始しているラオスについても、現地での寄付金贈呈式、ならびに現地視察を実施します。

(2) 募金概要

- ・募金期間 2026年4月1日～5月31日
- ・募金場所 全国のイオングループ事業所、ならびにオンライン
- ・支援対象国 カンボジア、ラオス

5. 近野教育振興基金(予算：2,500万円)

山形県置賜地方に所在する高等学校に在籍する高校生を対象とする高校生奨学金、および大学生奨学金を支給します。本奨学金を通じ、教育支援による若者の地域貢献を支援します。

(1) 本年度の主な取り組み

募集告知を3月から開始し、新入生とその保護者への周知を徹底します。あわせて、応募を検討する生徒や保護者への説明会を春休みに実施し、応募を促進します。

(2) 支給内容

① 高校生奨学金

- ・支給対象 山形県置賜地方の高等学校に在籍する高校生
- ・支給額 月額2万円
- ・支給期間 決定年4月～翌年3月までの1年間(最長3年間)
- ・支給人数 定員60名(各学年20名)

② 大学生奨学金

- ・支給対象 山形県置賜地方の高等学校に在籍し、当財団が指定する大学等への進学を希望する高校3年生
- ・支給額 月額5万円
奨学生内定者に受験料として最大10万円
合格した奨学生に入学一時金10万円
- ・支給期間 最短修業年限に相当する期間(最長6年間)
- ・支給人数 定員5名

(3) スケジュール

① 高校生奨学金

- ・募集期間 2026年 3月～4月
- ・授与式 2026年 6月27日
- ・奨学生セミナー 2026年 8月 8日

② 大学生奨学金

- ・募集期間 2026年 8月～9月
- ・授与式 2027年 7月
- ・奨学生セミナー 2027年 8月

(公益目的事業2) 諸外国との友好親善の促進に資する事業

1. ティーンエイジ アンバサダー(予算：1億2,100万円)

将来を担う日本と海外の高校生が、お互いの国の訪問を通じて文化や歴史に対する理解を深め、グローバルな感覚を身につけるとともに友好親善を深め、両国の架け橋となることを目指す交流プログラムです。

(1) 本年度の主な取り組み

2026年度は、経済成長とともに急速に教育水準の向上が進むベトナムとカンボジアの2カ国を交流相手国として実施します。国際情勢が変化する中であっても、次代を担う若者同士の「草の根交流」を継続することが当財団の使命であり、引き続き、表敬訪問活動、交流活動、歴史・文化活動の3つの活動を柱としたプログラムを、日本と交流相手国の両国で実施し、友好親善を図ります。

2027年度の交流相手国については、本年、日本との国交樹立160周年を迎えたイタリアでの実施に向けて検討を進めます。また中国での実施についても関係各所と継続的な調整を続けてまいります。

① 新規参加校の開拓

参加校の募集において、これまでのスーパーグローバルハイスクール、ワールドワイドラーニング指定校に加え、国際交流に熱意を持つ学校や、交流相手国の姉妹都市の学校に積極的にアプローチを実施します。

② ベトナムとの取り組み

a. 日本プログラム

- ・期間 2026年6月17日～6月23日
- ・概要 外務省への表敬訪問
在日本ベトナム大使館への表敬訪問、および歓迎会の開催
日本の歴史・文化に触れる体験やホームステイでの交流

b. ベトナムプログラム

- ・期間 2026年10月19日～24日
- ・概要 ベトナム政府への表敬訪問
在ベトナム日本国大使館への表敬訪問、および歓迎会の開催
ベトナムの歴史・文化に触れる体験やホームステイでの交流

c. 参加人数

日本より32名とベトナムより32名、計64名

③ カンボジアとの取り組み

a. カンボジアプログラム

- ・期間 2026年11月9日～14日
- ・概要 カンボジア政府への表敬訪問
在カンボジア日本国大使館への表敬訪問、および歓迎会の開催
カンボジアの歴史・文化に触れる体験やホームステイでの交流

b. 日本プログラム

- ・ 期間 2027年1月18日～23日
- ・ 概要 首相官邸、外務省への表敬訪問
在日本カンボジア王国大使館への表敬訪問、および歓迎会の開催
日本の歴史や文化に触れる体験やホームステイでの交流

c. 参加人数

日本より20名とカンボジアより20名、計40名

2. アジア ユースリーダーズ(予算：5,800万円)

アジア ユースリーダーズはアジアの将来を担う高校生たちが、グローバルな感覚を養い、多様な価値観を学ぶとともに、リーダーに必要な問題解決力や自発的な行動力を高めることを目的に、共通の社会問題について英語で議論するプログラムです。

(1) 本年度の主な取り組み

2026年度はテーマを「平和」として沖縄で開催し、地域のアカデミアや異なる世代との交流を通じ、多様性を受容するグローバルリーダーを育成します。

① 地域固有のプログラム

沖縄の自然環境や歴史・文化研究の拠点である琉球大学と連携し、持続的な平和の構築に関する専門的な講義や、サンゴ礁保全に関する研究施設でのプログラムを取り入れます。また、同大学の学生との交流を通じ、新たな気づきを得る機会を提供します。

② 異なる世代・多国籍交流

チアーズクラブのサマーキャンプと一部合同プログラムを実施します。チアーズクラブの小中学生に対し、自国の文化を紹介したり、ともに環境保全活動を行うことで、異なる考えや意見に対する理解を深め、視野を広げる機会を提供します。

(2) 実施概要

- ・ 事前説明会・勉強会（オンライン） 2026年6月～7月（2回）
- ・ 本番プログラム 2026年7月26日～8月1日
- ・ 最終審査会 2026年7月31日（東京都内）
- ・ 参加人数 日本より24名（沖縄県の高校生含む）、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ラオスより各8名 計80名

3. イオン スカラシップ(予算：3億4,700万円)

将来日本と母国の架け橋として活躍することを目指す学生を支援するため、日本の大学で学ぶアジア各国からの私費留学生と日本人学生、アセアン・中国で学ぶ各国の大学生と日本人留学生を対象に実施しています。

(1) 本年度の主な取り組み

20年を経て構築された約1万人の奨学生ネットワークを、当財団最大の資産と位置づけ、世代を越えた人的交流の活性化を図ります。

① 日本人大学生向けの奨学金

日本人奨学生に対し、アジアからの留学生と合同での研修を実施し、異文化理解の場を提供します。また、当財団の各事業にボランティアとしての参画を促し、社会貢献の意識を醸成します。

なお、日本国内・海外ともに採用枠は各大学1名としつつも、支給人数の定員に満たない場合は、選考上位通過者を総合的に審査し、採用します。

a. 日本人奨学金（日本国内）

- ・支給対象 日本¹の大学等で国際関係や外国語および情報・技術関係等を学ぶ日本人大学生
- ・支給内容 学費相当分
- ・支給期間 2年間
- ・支給人数 定員14名

b. 日本人奨学金（海外）

- ・支給対象 アジア7カ国の大学で学ぶ日本人大学生
- ・支給内容 学費と生活費相当分
- ・支給期間 2年間
- ・支給人数 定員26名

② アジアの大学生向けの奨学金

a. 外国人奨学金（日本国内）

- ・支給対象 日本¹の国内大学等に在籍するアジアからの学生
- ・支給内容 学費と生活費相当分
- ・支給期間 2年間
- ・支給人数 各校2名、定員28名

b. 外国人奨学金（海外）

- ・支給対象 7カ国の現地大学に在籍する学生
- ・支給内容 学費相当分
- ・支給期間 2年間
- ・支給人数 定員530名

③ 奨学生ネットワークの組織化による交流の仕組みづくり

「イオン スカラシップ同窓会」を実効性のある組織へと育てるため、日本の大学別の同窓会に加え、中国・アセアン各国に支部を設け、現地での自律的な交流を促進します。また、社会で活躍するOB・OGが、現役の奨学生に対してキャリア相談や学業アドバイスを行うネットワークづくりを支援します。

④ 日本語スピーチコンテストの開催

奨学金事業の一環として実施している日本語スピーチコンテストについては、本年もアジア各国で日本語を学ぶ大学生が切磋琢磨する機会として開催します。昨年、二次選考の開催を見送った中国については、情勢を見極めつつ、日中両国の関係機関と開催に向けた調整を行ってまいります。

コンテストの上位入賞者は、日本の大学に留学する際のイオン スカラシップ 優先候補としてまいります。

(2) 2026年度選考委員

「イオン スカラシップ選考委員会運営規程」第3条に基づき、候補者5名を2026年度の選考委員として選任します。なお、同規程第7条に基づき、選考委員長は当財団の事務局長をもって充てることとします。

① 選考委員一覧

5名（当財団の奨学金給付対象大学より4名、当財団1名）

氏名	所属
園田 智子	東京大学総合文化研究科・教養学部 留学生相談室講師
リー マージ クリスティン	早稲田大学国際教養学部教授 / 留学センター所長
保坂 進	国際大学事務局長
河合 成雄	神戸大学グローバル教育センター教授
佐々木 真理子	当財団 事務局長

② 任期

2026年4月1日 ~ 2027年3月31日

(公益目的事業3) 地域社会の持続的発展に資する事業

1. ふるさと未来支援(予算: 1億4,800万円)

地域社会を構成する一員として、子ども達の健全な育成、次代に引き継ぐ伝統文化や歴史風土の普及承継、ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に取り組んでいます。

(1) 伝統文化・工芸技術の継承のための助成

(ア) 2026年度助成

応募数は221件(昨年差+40)となり、3月に開催した審査会にて152件を採択しました。

- ・助成対象期間 2026年4月1日～2027年3月31日
- ・助成対象 日本国内の伝統文化・工芸技術の継承活動の実施団体
- ・助成総額 1億円

(イ) 2027年度助成に向けた募集開始

伝統行事の継続的な支援を行うため、2027年度の募集に関しても、2026年10月に開始予定です。全国的な募集告知に加え、応募の少ない地域については、行政と連携して応募を促進します。また、新規助成先を中心に助成金の活用状況を視察し、ホームページなどで発信することで、本事業の認知向上と応募拡大につなげます。

(2) ふるさとの振興・発展のための主催事業

次代を担う子どもたちに「ふるさと」の魅力を再認識し、愛着と誇りを持ってもらいたいとの願いのもと、地域で受け継がれている民族芸能の公演を開催します。本年度は、2024年1月の震災で被災した能登半島にて、同地の伝統行事・工芸を後世に伝える公演や展示を行います。子どもたちをはじめ、近隣にお住まいの方々を招いて実施し、能登半島の復興・発展に貢献してまいります。

- ・実施時期: 2026年9月12日
- ・参加対象: 開催地域近隣にお住まいの方々

(3) 里山再生事業

子どもたちが学びや里山を体験できる場となり、地域社会の持続性に結びつく「新しい里山」づくりに取り組みます。4月には千葉県香取郡多古町と協定を締結し、谷津田の再生に着手します。第1弾として、近隣の子どもたちによる生き物調査や開拓状況の見学などの自然体験学習を行うとともに、谷津田における水田造成を進めます。

(4) イオン すくすくラボ

地域社会の持続的な発展を目指し、0歳から3歳の乳幼児や未就学児とご家族を対象に、育児に関する深い知識を持つ講師によるセミナーやイベント等を行い、地域の子育て世代をサポートします。2026年度は、これまでに構築したネットワークをいかしたセミナーのほか、新たに寄付企業と連携した子育てイベントを開催します。

- ・実施時期 年8回
- ・参加対象 開催地域周辺の乳幼児や未就学児とご家族

2. 災害復興支援(予算：7,000万円)

大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、迅速な緊急支援金や物資の贈呈などを通じ、被災地の復旧・復興を支援してまいります。

(1) 本年度の主な取り組み

① 迅速な緊急支援の実施

近年増加している自然災害などにより甚大な被害が発生した際には、緊急支援金の贈呈など速やかに支援を実施します。

② 首里城復興支援

2026年11月22日予定されている首里城正殿復元に向け、当財団による支援への認知を高めるため、集客力の高い空港や店舗などで「首里城復興祈念展」を実施するほか、ポスターコンクールを継続開催します。

3. 公益法人への支援（予算：1,900万円）

地域の発展に貢献するとともに、子どもたちの情操教育に繋がる活動として、青少年育成活動団体への支援を継続的に行ってまいります。

(1) 本年度の主な取り組み

① (公財) パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会への助成

(1,100万円)

メインスポンサーとして協賛するとともに、札幌および東京にてイオン チアーズクラブのメンバーがオーケストラメンバーと交流し、楽器演奏を体験するツアーを行います。また、期間中、店舗での演奏会など、地域の寄付企業と連携した取り組みを実施します。

・実施期間：2026年7月7日～7月27日

・助成対象：パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌2026

② (公財) サイトウ・キネン財団への助成(500万円)

プラチナ会員として協賛するとともに、松本エリアにおいてイオン チアーズクラブメンバーがオーケストラメンバーと交流し、楽屋や舞台装置を見学するツアーを行います。また、期間中、店舗での演奏会など、地域の寄付企業と連携した取り組みを実施します。

・実施期間：2026年8月16日～9月2日

・助成対象：2026セイジ・オザワ松本フェスティバル

③ (公財) 川端康成記念会への助成(300万円)

本年度より、新たに(公財)川端康成記念会への支援を開始します。

同財団は、鎌倉を拠点に、「川端康成の功績を記念して、優秀な文学作品を顕彰し、あわせて記念館を設置して、内外の日本文学、および川端文学愛好家に益し、もって日本文化の振興を目的とする」ことを定款に定めています。こうした地域に根差した文化振興の趣旨は、当財団の公益目的事業の理念と合致するものです。

本支援にあたっては、次世代を担う青少年の育成や、諸外国との友好親善にかかる当財団の事業と連携を行い、参加者に質の高い日本文学に触れる機会を提供します。

管理費（法人会計）（予算：7,800万円）

1. 広報活動

（1）概要書・活動報告書

概要書、および事業活動をまとめた活動報告書の発行を継続します。活動報告書については、寄付企業やその店舗をはじめとする配布先に活用状況のヒアリングやアンケート調査を実施し、内容の充実と質の向上を図ります。また、新たにデータ配信を開始することにより読者層の拡大に努めます。

（2）ホームページやSNSでの情報発信

ホームページを改修し、ユーザビリティの改善、およびセキュリティ強化を図ります。また、SNSやウェブ広告を活用した情報発信の頻度を高め、当財団の事業活動や事業目的をより多くの方に伝えてまいります。

（3）海外イベントへの参加

各国大使館や各省庁が主催するフェスティバルに出展し、当財団の活動について周知するとともに、大使館や省庁との連携強化を図ります。ティーンエイジアンバサダーやアジア ユースリーダーズの参加者、イオン スカラシップの奨学生に応援いただき、イベントを盛り上げるとともに、彼らの社会貢献意識を醸成します。

（4）会員データベースの充実

会員データベースについて、当財団が実施する全ての事業参加者のマイページを整備するとともに、OB・OGの登録を推進し、財団とつながり続けられる仕組みを充実させます。あわせて、登録件数とアクセス数の増加に対応する基盤構築を進めます。

2. 団体会費（活動支援の寄付として）

- | | |
|------------------|-----------|
| ・ ジャパンプラットフォーム | 会費予算：30万円 |
| ・ 公益財団法人花と緑の農芸財団 | 会費予算：22万円 |
| ・ 公益財団法人公益法人協会 | 会費予算：12万円 |

以 上